

S3-5 多発筋炎／皮膚筋炎におけるアフェレシス

- 1) 信州大学医学部第三内科、2) 武蔵野赤十字病院内科、
3) 信州大学医学部附属病院人工腎臓部

高 昌星 1)、井上 敦 1)、篠田俊雄 2)、新倉俊男 3)

目的：多発筋炎／皮膚筋炎は炎症性ミオパチーであり、その病因に免疫性機序が関与していることが知られているが、その詳細な機序はまだ不明である。治療の第一選択は副腎皮質ステロイド薬とされているが、副腎皮質ステロイド薬抵抗性の多発筋炎／皮膚筋炎も多く、後遺症を残したり、副腎皮質ステロイド薬による重篤な副作用を来すことも少なくない。我々はこうした治療抵抗性の多発筋炎／皮膚筋炎に対し、免疫吸着療法の有用性を検討した。方法：副腎皮質ステロイド薬は原則として投与量を $0.75 \sim 1.25 \text{mg/kg/日}$ とし、副腎皮質ステロイド薬抵抗性、または副腎皮質ステロイド薬治療中に再燃を来した多発筋炎／皮膚筋炎に対し、吸着材 PH-350 または TR-350 を用い、1回の血漿処理量を2リットルとし、CKが低下しない場合に間欠的に繰り返し施行した。結果：免疫吸着療法を施行後、CKの低下を認め、副腎皮質ステロイド薬抵抗性、または副腎皮質ステロイド薬治療中に再燃を来した多発筋炎／皮膚筋炎に対し免疫吸着療法は有効であった。重篤な副作用はみられなかった。結果的に副腎皮質ステロイド薬の減量を可能にした。従来の副腎皮質ステロイド薬のみの治療に比べ、長期予後もよく、重篤な後遺症も少なかった。結論：副腎皮質ステロイド薬抵抗性、または副腎皮質ステロイド薬治療中に再燃を来した多発筋炎／皮膚筋炎に対し免疫吸着療法は有用であり、副腎皮質ステロイド薬の減量のためにも今後積極的に用いるべきと考えられた。

S4-1 多臓器不全(MOF)に対するAlbumin添加透析液(AD)を用いた新しい血液浄化法の確立

和歌山県立医科大学 血液浄化センター

○阿部貴弥, 上田俊郎, 正野峰夫, 斉尾英俊, 小畑拓嗣, 阿部富彌

【目的】MOFの治療法として、血液浄化法が積極的に施行され、満足のいく結果が得られている。しかし従来の透析液を用いたCHDFなどでは、Bilirubin(Bil)などAlbuminとの結合の強い毒素(ABT)の除去効果が不良であり、血漿交換療法や吸着療法などの補助を必要とする。今回Albuminの多分子結合能に注目し、Albumin添加透析液(AD)のABTに対する除去効率を検討し、ADがMOFに対し新しい血液浄化法と成り得るかを検討した。

【方法】①基礎実験：ABTとして、Bil, phenol類(Phe), インドキシル硫酸(IS)を選び、高Bil血症に施行した血漿交換廃棄血漿およびPhe, ISは血漿交換廃棄血漿に各々一定濃度に調整した血漿を対象とし、従来の透析液及び5%ADを用い還流実験を行った。②臨床応用：MOFに伴う高Bil血症に対し、専用回路を用いADを再生することによりAlbuminの使用を最小限度にする工夫を行いながら持続的アルブミン浄化法を施行した。

【結果】従来の透析液では、ABTの除去は不可能か効率が不良であった。しかしADを用いることにより除去効率の向上を認めた。また臨床応用においては、通常のCHDFと同様に、3日間連続の施行が可能であり、Bilなど毒素の除去が可能であった。

【結語】従来の透析液に比べ、ADはABTを効率よく除去する事が出来た。また臨床応用において、持続性血液透析濾過の無効であった高Bil血症を呈するMOF症例に対し、ADを用いた持続血液浄化法はBilだけでなくその他の毒素を安全に、効率よく除去することができ、本法はMOFに対する新しい治療法に成り得る。